

2013 年度三井物産環境基金の研究助成は、採択件数 15 件（総額 149,964 千円）となりました。応募総数 149 件からの選考です。本年度より、東日本大震災からの復興に向けた復興助成枠を一般の研究助成枠と統合して公募することとしましたが、これは復興に向けて緊急性のある研究に助成するという復興助成枠の使命が一段落したこと、また今後は長期的な視点から復興を考える必要があるということによるものです。実際、復興に関する応募案件も減ってはならず、採択件数においても 15 件の中で 2 件は東日本大震災からの復興に関する研究であり、昨年度下期の復興助成枠で採択された 2 件（14 件中）とほぼ同率となっています。東日本大震災からの復興が日本にとっての重要課題であることには変わりはありません。

本年度の公募で特徴的であった点として、海外との二国間連携もしくは国際連携を目的とした応募が多かったことが挙げられます。結果としても採択された 15 件のうち 8 件は何らかの形で海外連携を指向した提案となっています。ややもすると内向な姿勢が懸念されている日本の状況を考えると、国際展開を目指す方向へ研究者の目が向いているということは大変望ましい傾向ではないかと考えます。地球環境問題の解決と持続可能な社会の実現への貢献を方針とする本基金の案件選定委員会としてもこの流れは注視して行きたいところです。

一方でやや懸念される傾向も見て取れました。科学技術の深化を図ることもさることながら、社会の期待に応じて現実の課題を解決することにより重きを置く三井物産環境基金ですが、その視点が弱い提案も少なからずありました。社会の課題を解決するためには、科学技術に専念する学界の研究者のみならず、社会の課題を敏感に感じている学界以外の関係者を巻き込み、科学技術が社会と協働することが不可欠です。その方法論はまだ確立しておらず、今後、取り組まなければならない大きな研究分野であることは間違いありません。数多くの論文が発表されまた多くの知見が得られているが、目の前の課題は解決されていないということでは、ただ残念というだけでなく社会的責務も果たせていません。そこで、案件選定委員会では、本年度、これまでに採択された研究助成案件から 8 件を選んで発表をして頂き、果たして社会の課題の解決につながる研究となっていたのかどうかも含め、成果を聞かせていただく機会を設けました。

そこにおいて聞かせて頂いた内容は、科学技術の新たな展開と社会的な課題に立ち向かう姿勢が見事に融合した素晴らしいものでした。これまで採択された総計 146 件からの代表選手ということではありますが、やはり、社会の期待を意識して提案の目的や構成を絞り込んだものはその成果も良い、ということを感じました。これらの成果や内容を広く公開する仕組みを作っていくことも良い研究成果を挙げるための一案かもしれません。

本基金が軸となって、科学技術を社会とつなぐ動きが加速することを祈念して止みません。